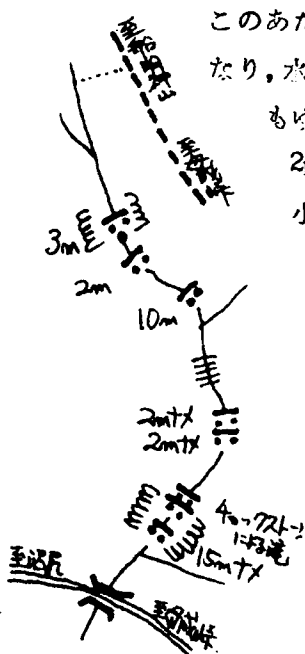


になったが、調べてみるとその割でない。中の沢と赤留川に入るパーティに別れ、出合へ。地図では樽川となっているが、母成グリーンラインの橋には小遼沢と記されている。

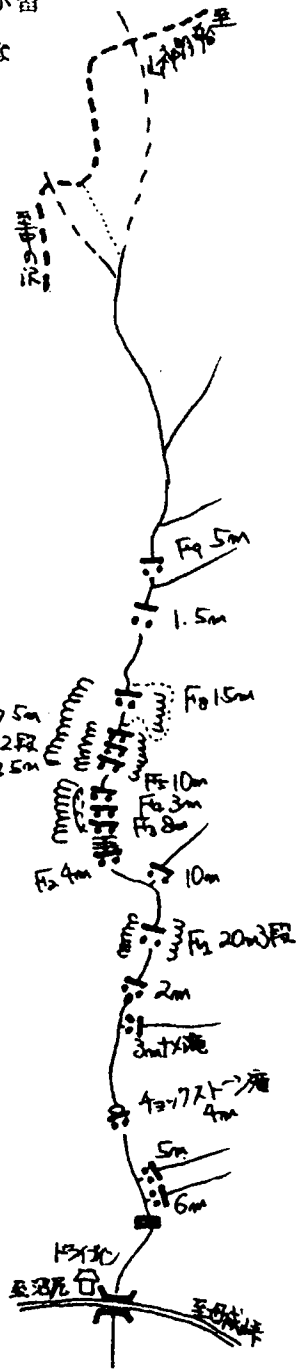
すみやかにわらじをつけて遡行開始。沢は傾斜がゆるく平凡である。しばらくゴーロが続ぎ、間もなく15mのナメ滝が現われる。その先さらに50m程のきれいなナメが続く。右に枝沢を分けると10m程の比較的幅の広い滝が現われた。思いもよらぬ滝であった。



このあたりよりゆっつきり沢幅もせまくなり、水量も減ってきた。そして、傾斜もゆるくなって、ゴーロとなる。2mの小滝を越える。間もなく小さな釜をもつ3m滝に出会う。オーバーハングきみで、ホールドもない。しかたなく、左岸を登って上部に出る。ここを過ぎると極端に水量が減り、プッシュがかさまり歩きずらくなる。9時07分、水もかかれてきたので、右にトラバースして登山道に出

赤留川

ドライプインの所にかかる赤留橋より入溪。しばらく遡ると、左岸に「赤滝〇分」という標識板があり、上流に赤滝がある事を示している。また、左



赤留川 (作図:)

岸には踏跡がある。左岸より小沢が2本滝となって合流。手前には水道のポリパイプがあり、下のドライブインに水を引いているのであろうと思われる。ゴルジュになっている所を通り、少し遡ると、前方にチョックストーン滝。これは右岸をへつり、倒木を利用して通過。この先しばらくは平凡な沢歩き。

小滝のすぐ上にF1 20mが見えてくる。3段の滝でナメ状斜。下段11m、中段7m、上段2m。左岸を直登。これが赤滝かと思われる。

少し遡ると右より10mの滝となって小沢合流。その上にナメ滝が見える。右岸が草付のスラブでなかなか明るい。全部で30mもあろうか、段々のナメ滝で、これを次々と越えていくと岩壁がせまってくる。右岸には上の方に場が見える。小滝に続いてF6、F7。この3つの滝はいずれも左側が岩でうまっている。この少し先に、上から水しぶきが落ちるような直、F8 15mが見える。2条になっていた。兩岸とも登れそうにないので、左岸を捲く。

この滝の上は平坦になってきて、両側からヤブがおおいおぼさってきた。小滝を越え、その上のF9 5mの釜には左岸より小沢合流。滝の上部はトイ状となっていた。この先はもうやぶこぎのようになってきた。少し広くなった所で二俣。ここより沢からはなれ、黒根筋を登山道まで歩く。

(記)

赤習橋(6:40) — 登山道(9:45)

中の沢

沢登りの魅力は、次に何が出てくるかという期待感と、滝を直登する際の緊張感にあるといってもいいだろう。しかし、ただ期待感だけに終わる場合も少なくないのであって、中の沢もその1つであった。

